

私たち梶原人は、昭和39年に一人ひとりが村を愛し、力を合わせて「新しい村づくり」に邁進する決意を表明し、「福祉村宣言」をいたしました。

以来、時代は昭和から平成へと移り変わり、激動する時代の中で、先人は常に未来を見つめながら「決断と実行」を繰り返し、今日の梶原町を築いてきました。

しかしながら、人口の減少には歯止めをかけることができず、このままでは梶原という地域社会が、消滅する恐れがあります。

四国カルスト台地に抱かれた森林から生まれた水が、清流四万十川となり、棚田をうるおし、やがて黄金色に輝くとき、鎮守の森では津野山神楽太鼓と子どもたちの笑い声がハーモニーを奏でている、そんな梶原の1, 100年の文化を、私たちの代で無くすことはできません。

生活環境整備が進む今こそ、過去に学び、未来を自分たちで築いていくことが私たちの使命であります。

そのために、私たちは、今、皆の願いである「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という思いを実現するために健康・環境・教育・産業・文化・くらしの幸せを感じる「まちづくり」を目指します。

私たちは、半世紀にわたる「福祉村宣言」を心に刻み、人と人の絆を大切にし、個性を尊重し、皆で支え合う、「福祉のまちづくり」を宣言します。

平成26年11月3日
高知県 梶原町